

ては、すでに二五%ときわめて高い増加率をみせている。

このようにことしはまた「史上最高の記録」にもなりかねない現状であるが、ことしこそうれしくない記録づくりに終止符をうちたいものである。

「交通事故はまだだだ続く」という言葉は使いたくないが、交通情勢の悪化はいろいろな面で事故発生要素を充分含んでおり、引き続き事故の増加が予想されている。

ここで今後の増加予想を推計することは、あまり好ましくないことであるが、事故防止対策の一つと考えあえて将来の見透しを推計してみた次第である。

なお、この推計は昭和三十七年から五年間の事故の実数と、年伸び率を基礎にして推計したものであくまで参考資料の一つとしてである。

年別	昭和43	昭和44	昭和45	昭和46	
発生件数	件数	12,788	15,346	19,821	25,256
	伸び率%	25.00	20.00	29.16	27.42
死者数	(人)	260	295	330	378
	伸び率%	15.76	13.63	12.00	14.28
負傷者数	(人)	10,307	12,884	15,461	19,004
	伸び率%	23.07	25.00	20.00	22.91

交通事故防止については、全県民が真けんにこれと取組んでいる今日、推計どおりに増加することはあり得ないとは思いますが、昨年までは推計とあまり変らない結果がでているところから、ことし前途もきわめて憂慮すべき情勢にあるのである。

(県警交通企画課)

以上のように交通戦争は車がふえ、運転者がふえ正比例して事故がふえることを予言している。そして犠牲者は年々跡をたたないだろう。このような状況を背景に県では、昨年四月交通安全対策室を設置し、その対策の促進に力を入れていくが、今年度の交通安全対策促進費は昨年度の前年を上廻る四百八十五万円を計上。さらに、昨年五月には県下六十五団体からなる、熊本県交通安全県民会議が結成されことしはいよいよ軌道にのりつつある。そして、県では交通安全対策のための当面する課題として次の四本の柱を大きくかかげて総合対策を大きく推進している。

- ◆交通安全教育の徹底 (意識の昂揚と実践)
 - ◆交通安全施設の整備充実
 - ◆交通秩序の維持 (指導と取締り)
 - ◆被害者救済対策の積極的推進
- ではこの四本の柱について、これからのベテマにみることにしよう。

交通安全の教育

交通安全意識の向上へ

交通事故に生命をうばわれる者は年を重ねるにしたがって多くなっている。生命を亡くした者や傷ついた者の身内の人達は社会に対して、「交通取締りの強化を!!」「道路の整備を!!」「交通安全の徹底を!!」と悲痛な声で訴えている。本県の事故原因をみても不可抗力はほとんどなく「運転者の不注意」「交通法令の知識の不足」「歩行者の不注意」など、人の側で予防できるものが大半を占めている。このことからしてみなが正しい歩行をし、正しい運転をしさえすれば事故の八割は防止できるのではなからうか。

以上のようなことから考えても交通道徳や交通規則を正しく理解し、正しく実践することの必要性、すなわち交通安全意識の向上とこれを社会生活の上で実践していく態度の養成こそもっとも大切なことと言えよう。

そこで交通安全の具体的なとり組み方について、いろいろの角度から考えてみることにしよう。

学校教育のなかで

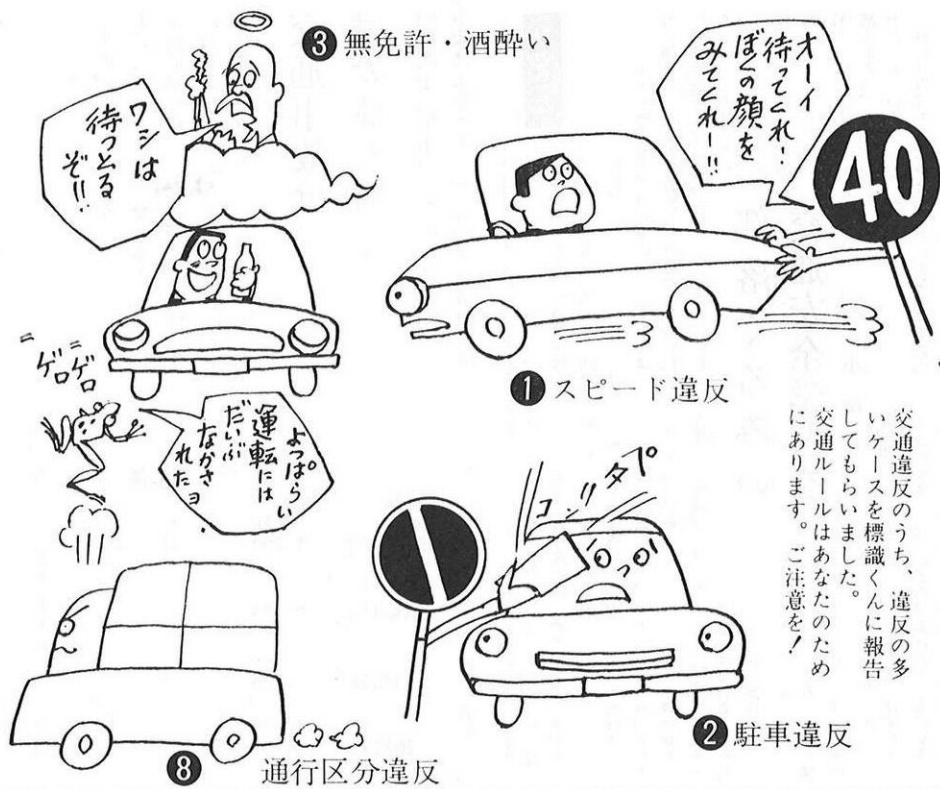
(PTAとの結びつき)

学校教育では各教科、道徳、特別教育

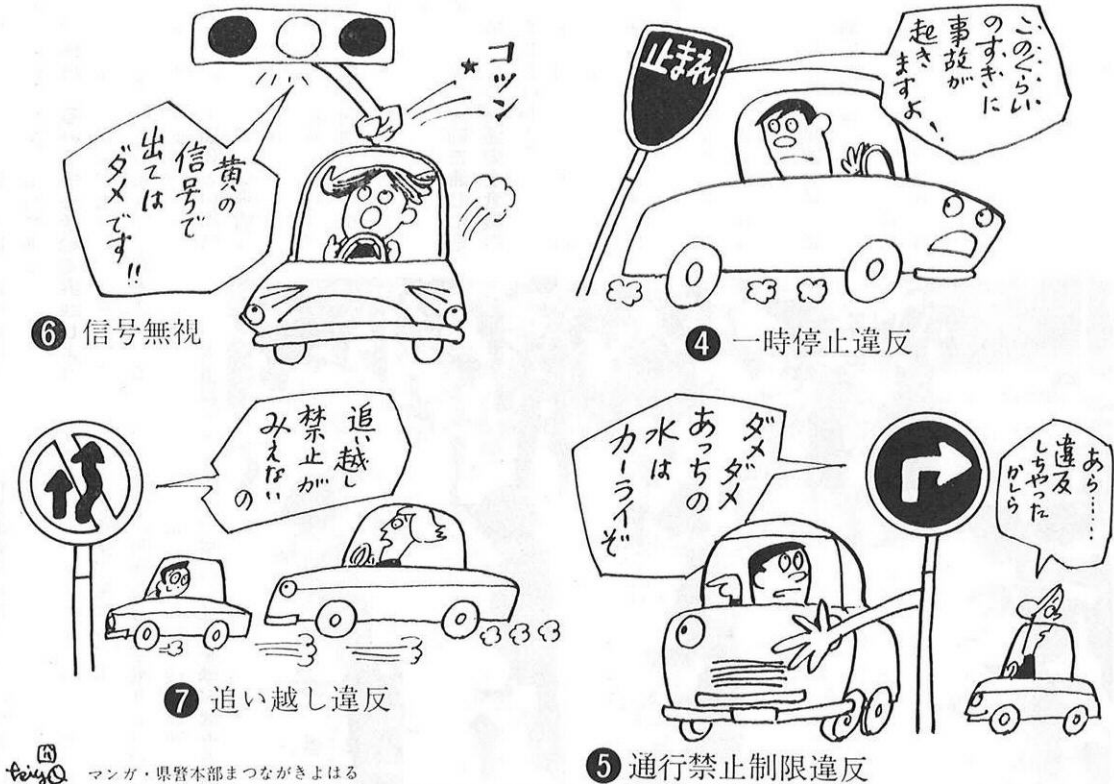
活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて行なうものとし「安全の日」また「安全週間」を設けるなどして徹底がはかられている。とくに交通安全指導は、交通事故から児童生徒を守るための保護的な面ばかりでなくて、子どもみずから安全な行動のできる能力を身につけ積極的に交通事故を防止できる人間の育成をめざすものである。そして更に将来、よい運転者、安全な歩行者となり、人々の安全な生活に貢献する国民となることが望まれて、

- ◎ 学校行事における指導
 - ◎ 習慣化をはかり実践意欲を高める指導
 - ◎ 体育保健における敏しよ性、巧み性の育成指導
- などをすすめているが、やがて近い将来指導カリキュラムの中の重要な事項としてこれだけの時間はゼヒ安全教育の時間として位置づけられてくることは間違いないことだろう。なお、交通安全の実践の場は、主として学校外にあるので、集団登下校をはじめ児童生徒の自主的組織活動部が必要であり、高校生については生徒自治会、クラブ活動等において、交通問題をとりあげた新聞、ビラ、校内放

標識くんが見た交通違反



交通違反のうち、違反の多いケースを標識くんに見てもらいました。交通ルールはあなたのためであります。ご注意を!



マンガ・県警本部まつながきよはる